

第7回 奈良交道路線バス(ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線)
利用促進に向けた三者協議概要

- 日時 令和6年6月14日(金)午後7時00分～午後8時30分
場所 ひかりが丘集会所
参加者 ひかりが丘18名、あすか野3名、あすか台1名、白庭台1名、
西白庭台1丁目1名、西白庭台2丁目1名、上町1名、北田原1名、辻町1名
事業者：奈良交通株式会社3名
行政：生駒市(事業計画課)3名
コンサルタント：システム科学研究所3名、ティデザイン1名
話題 (1)ひかりが丘住宅線・生駒ニュータウン線の運行継続について
(2)今後の利用促進の必要性について
(3)これまでの振り返り
(4)グループワーク
(5)次回について

概要

- (1) ひかりが丘住宅線・生駒ニュータウン線の運行継続について
・行政から、資料1「奈良交道路線バス「ひかりが丘住宅線」「生駒ニュータウン線」の運行継続の決定について」に基づき、路線の運行継続の説明があった。
- (2) 今後の利用促進の必要性について
・行政から、資料2「なぜ今後も利用促進が必要？」に基づき、利用者(地域)・奈良交通、市が三位一体となって引き続き利用促進に取り組まなければ、バス路線の運行継続は一時的なものになってしまうことについて説明があった。
- (3) これまでの振り返り
・行政から、資料3-1「ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線 第4回 三者協議ニュース」、資料3-2「ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線 第5回 三者協議ニュース」、資料3-3「ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線 第6回 三者協議ニュース」、資料3-4「ひかりが丘住宅線及び生駒ニュータウン線 三者協議ニュース」令和5年度まとめ」の説明があった。
- (4) グループワーク
・参加者を5グループに分けて、各グループで利用促進の取組みのアイデアについて話し合っていた。

(以下グループワークで出された取組みのアイデア)

※★：おすすめの取組み

①周知

★車内に地元用の無料広告スペースを設けて、地元のイベント情報を告知する。

★百歳体操や高齢者向けサロンなどの集まりの際にバス利用を呼びかける。

- ・転入者向けにバスマップを配布する。
- ・バス存続の危機的状況を伝える。
- ・バスのメリット（マイカーよりも安くて安全で便利）を伝える。
- ・老人会でのバス利用の呼び掛けを継続する。
- ・バス 100 円 DAY をもっと広報する。

②店舗やイベント等との連携

店舗や施設等との連携

★バス利用者に対して一品追加や 100 円割引等のサービスをする。

- ・商店街の店舗と連携する。
- ・病院と連携する。
- ・観光施設とタイアップする。
- ・来訪者向けに地域の店を紹介するマップを作成する。

イベントとの連携

★バス 100 円 DAY に合わせて自治会の歩こう会を実施する。

★多くの利用が想定されるイベント時（例：どんどこ祭り）は、運賃収入を確保するために運賃を割り引かない。（100 円 DAY にしない）

- ・イベント時はバス料金を割引する。
- ・自治会行事にバスを活用する。
- ・同じ趣味の住民が集まって、バスに乗ってイベントに参加する。
- ・イベント時にパーク&ライドを実施する。
- ・イベントを市の公共施設で開催する。
- ・こみすて等で PR して良い案を集める。

③利便性・使いやすさ向上

乗継時間

★白庭台駅でのバスと電車の乗継時間を調整する。

運賃

- ・違う路線に乗り継ぐ際の割引制度を導入する。
- ・運賃を安くする。

運行本数

★ひかりが丘と白庭台駅間の運行本数を増やす。

- ・朝 8 時台を増便する。

バス停

- ・ひかりが丘集会所前バス停を新設する。
- ・バス停の位置を施設前にする
- ・自宅からバス停が近くなるように運行ルートを変更する。
- ・フリー乗降にする。
- ・待合空間（バス停、ベンチ）を整備する。

企画乗車券の販売

- ★子育て用や昼間の高齢者用など、利用者の属性に合わせた企画乗車券を販売する。
- ・子どもが安く乗れるようにする。
- ・いきいきクーポンを廃止し、高齢者パスを発行する。

④利用者の声を聞く

- ★実際に路線バスを利用している方（ふれあいクラブ）に三者協議へ参加してもらう
- ・三者協議を平日昼間に開催する。

⑤乗車機会を創出する

- ★乗り方教室を実施する。その際に、定期券を購入してもらう。
- ・免許返納前に家族や友達とバスに乗車してみる。
- ・自分の最寄りバス停や行きたい目的地のバス停を整理したマイ時刻表を作成する。

⑥意識醸成

- ・公共交通に乗って維持するという意識を醸成する。
- ・興味がない人への PR 方法を考える。

⑦新たな利用者拡大

- ・工業団地の社員や先端科学大学の学生の利用拡大をめざす。
- ・地域でサークルを作って、バスを利用してもらう。
- ・移動スーパーとくし丸を活用する。

⑧バス利用への転換

- ・高校生の通学を、親の送迎から、バス利用に転換する。

⑨集客・資金確保

- ・ボンネットバス、レトロバスを活用してバスファンを増やす。
- ・町おこしをして、来訪者を増やして、バスを利用してもらう。
- ・バスファン向けにクラウドファンディングを実施する。
- ・物販を実施する。

⑩他の交通手段の活用

- ・乗合タクシーを導入する（バスでは行けない場所への移動を支援）。
- ・電気バスを運行する。

①サポーター制度

- ・ふるさと納税により市の利用促進施策を支援する。
- ・奈良交通への寄付を募って、市内路線を維持する。

(5) 次回について

- ・行政から、今回のグループワークの内容はニューズペーパーを通じて地域に共有し、次回はこの内容をもとに具体的な取組み案について考えていきたい。次回開催日は改めて関係者と調整の上連絡するとの説明があった。

以上